

1 活動目標

新学習要領に示された資質・能力育成を踏まえた学力向上の視点で、学習内容への関心を高め、その定着を図るためにマスメディアの一つである新聞を活用する。

2 設定理由

「知識の習得」に重点をおいた教育から「知識を使う能力」に重点がおかれる教育に移行する。そこで、職員には「生徒が学習内容に関心が高まるような新聞の活用方法」を、生徒には「新聞から得られた情報を読み解く力を学ぶ」ことで学力の向上が図れるのではないかと考え設定した。今年度は積極的に授業での活用を考えた。

3 英語科の実践

(1) 授業計画

時	主な学習活動	主な技能	
第1時	〔目標：薩摩川内市のどんなところを伝えていけばよいのか考えてみよう。〕 ○ Presentation 2 モデル文理解（熊本市の紹介） 新出単語の練習	L, R	○ ふるさとコミュニケーション科との関連 □ ICTの活用 □ 薩摩川内市の何が知りたいか外国の方のインタビューを動画でみる。 ○ 昨年つくった新聞や使った情報などを持参させる。
第2時	〔目標：薩摩川内市についての新聞作成でモデル文を参考に作成していこう。〕 ○ 鹿児島市観光協会 モデル文理解 ○ Unit 6 there is 構文 復習	R, W	□ 鹿児島市観光協会ホームページをテレビに提示する。 ○ 新聞づくりで使った情報等をもとに、英文を書く。
第3時	〔目標：グループでつくる新聞が、まとまりがあるか、伝えたいことが伝わっているか考え、新聞を完成させよう。〕 ○ 新聞の再構成	R, W	□ 他の学校で作成された英字新聞を参考に提示する。 ○ グループ分けの際、観光や歴史など、ふるコミ時の種類分けを活かす。
第4時	〔目標：みんなでつくった薩摩川内市の英字新聞を発表しよう。〕 ○ プレゼンテーション ○ インタビュー	S	□ ふるコミで行った新聞発表と似た形式を行い、関連付ける。 ○ プレゼンテーションで特に伝えたい記事等を事前に写真でとり、テレビで提示する。

L : Listening R : Reading W : Writing S : Speaking

(2) 授業設計の工夫

ア テーマの設定

実際に薩摩川内市に来る外国の方のインタビューを流すという現実性のあるテーマ設定により、興味関心を持たせ、目的意義を明確にする。

イ 教科横断的な視点を活用する。

カリキュラムマネジメントの一環として他教科とのつながり（昨年度のふるさとコミュニケーション科での活動）を持つことで、生徒の理解をより深める。

ウ 学びあいの場を設定する。

生徒同士の学び合いの場を設定し、教えあう雰囲気から英語を書くことへの肯定的な意識を助長する。

(3) 本時の学習

区分	学習過程	時間(分)	主な学習活動	○ 指導上の留意点 ◇ 評価
導入	1 Greetings	5	1 あいさつをしたり、曜日や天気 の質問に答えたりする。	○ 英語でのあいさつや、簡単な対 話等を通して英語学習の雰囲気づ くりをする。
	2 Warm-up		2 リズムに合わせて単元の単語 をペアで練習する。	○ 新出単語を何度も繰り返すこと で単語習得の定着を図る。
展開	3 Grasping Task	1	3 Big question 「What do you know about Satsumasendai?」 をお題にペアで1分間会話する。	○ 発表前に1分間やりとりにて会 話することで表現の復習など振り 返る機会を設ける。
	4 Introduction to the today's goal	2	4 導入時に視聴した外国の方が 知りたい薩摩川内市のことをも う一度確認する。	○ これから新聞を発表するため に、どこを強調すればよいか改め て想起させる。
	5 Today's goal	1	5 学習目標を把握する。	○ 3, 4で関心・意欲を高めた上 で目標を提示する。
	6 Practice	2 5	6 作成した新聞を発表する練習 をする。 (1) プレゼンテーションで気を つけることや評価基準など 発表方法を確認する。 (2) グループで読む。	○ プレゼンテーションで注意す べきところはどこか意識させるた めに、全体で評価するポイントを 確認する。
開	7 Presentation	25	7 各グループ新聞を発表する。 (1) presentation (2) interview	○ 事前に新聞を写真にとり、テレ ビで拡大し、発表者が伝えたいこ とを認識しやすくする。 ◇ 薩摩川内市を紹介する文を音声 の特徴に注意しながら読むことが できるか。 ◇ 新聞の内容を適切に発表し、聞 いている人に表現を工夫しながら 発表することができたか。
	8 Understanding of receiver's comment	3	8 新聞をみた外国の人の感想を みる。	○ 英語が伝わるという実感を持た せるために、新聞をみた外国の人 の感想を実際に紹介する。
終末	9 Evaluation	2 3	9 本時の振り返りをする。 (1) Big question についてもう 一度ペアで確認する。 (2) 振り返りシートの記入	◇ 新聞づくりの内容を適切な表現 で相手に伝えることができるか。 ○ 本時の内容を振り返らせ、本時 の定着度を確認する。
	10 Greetings	1	10 あいさつをする。	

(6) ワークシート

How to make presentation (about 2 min)



1. Introduction
 発表の目的: Our group name is () 私達のグループの名前は () です。 ※グループ番号でもよい。
 Today, we want to talk about () 私達は () について話したいと思えます。 Let us begin. それでは始めます。

2. Body
 1. 1番目の人: First, I want to talk about () 初めに私は () について話します。自分が書いた記事を読みます。 2番目の人: Second, I want to talk about () 2番目に私は () について話します。自分が書いた記事を読みます。 3番目の人: Third, I want to talk about () 3番目に私は () について話します。自分が書いた記事を読みます。 4番目の人: Last, I want to talk about () 最後に私は () について話します。自分が書いた記事を読みます。

3. Conclusion
 みんなで、みんなちゃんとメッセージを読めるように
 "Please come to Satsumazenda City". "We want to meet you here!", and so on.
 聞いてくれたお礼
 Thank you for your listening.

How to make questions (about 1 min)
 (例) Are there any other interesting places?
 Why do you like your town?
 How often do you go there?
 Are you interested in ()? and so on.

Presentation 2 町紹介 (2分-4分) 自分の住んでいる町について発表できる。

Name: ()

Today's goal: みんなでつくった薩摩川内市の英字新聞を発表しよう。

Big question: What do you know about Satsumazenda?

Let's think! 友の習熟度表を参考に、友達の発表を評議してみよう。

Group name:	Group name:
1. Context A・B・C・D	1. Context A・B・C・D
2. Attitude A・B・C・D	2. Attitude A・B・C・D
3. Speaking A・B・C・D	3. Speaking A・B・C・D
4. Group A・B・C・D	4. Group A・B・C・D

＜観覧席＞
 ・ 友達の発表を聞いて、薩摩川内市について相手に伝えることができただか。(4・3・2・1)
 ・ 友達の発表を聞いて、薩摩川内市について相手に伝えることができたか。(4・3・2・1)
 ・ 薩摩川内市の事を紹介する友達の発表を参考にすることができたか。(4・3・2・1)
 ・ 友達の話から、わかったこと、これからは確認してみたいこと＞

(7) 授業者の感想

- 今回の単元「町紹介」の授業研究をしていると、自然と去年行ったふるふろの活動「薩摩川内市新聞づくり」が頭に浮かんだ。一生懸命生き生きと取り組んでいた姿をまた見てみたいと思い、英語での新聞づくりを実践した。テーマの振り分け方や情報の活用など、去年のふるふろの活動も活かしていくことで、生徒も戸惑う様子があまりなく、進めることができた。ただ、実際に行ってみると手立てがたくさん必要であった。英語表現の簡素化やよりよい新聞の作り方、プレゼンテーション方法など多くの課題点が残った。その課題点に共通して通じる点が、「具体的な目標設定のなさ」だと感じた。目指したい生徒像をより具体的にすることで、生徒の学ぶ姿は変わっていくのである。新聞づくりを通して、私も多くのことを学ぶことができた。今回の実践をやり遂げて本当に良かったと感じている。この実践で得たことをこれからの教育活動につなげていきたい。

4 成果と課題

成果

- 2年間の活動を通して、生徒・職員に NIE を意識付けることができた。(生徒会活動に新聞掲示を加えた。授業で新聞を活用することがあった)
- NIE の効果を感じている職員がいる。

課題

- 「教科書をするだけで精一杯」「教科書を終わらせるのが大変」「テスト範囲が」ということで NIE どころではない現状である。手段が目的化してしまい学びの一番楽しい「知ること」の楽しさでなく、覚えることの「苦しさ」が強調されているようにも感じる。もっと職員が柔軟な考えに解放されるといろいろな取組ができそうである。